

日本語スピーチ特集

11月20日(日)開催の日本語スピーチには“NVGほどがや”から1名、“国際交流Seya”から1名、当会から8名が参加しました。皆さんお疲れ様でした。スピーチ終了後、講評をお願いした千駄ヶ谷日本語教育研究所・吉川先生から「スピーチをした皆さんとボランティアの方々との間に、しっかりした信頼関係が築かれていることに感動しました。今後もこのような人間関係を拡げていき、外国人と日本人とが対等で、お互いにより暮らしやすい地域社会を是非とも築いていってほしい」とのお話がありました。以下、当会よりの参加者8名への講評をご紹介します。



李 娜さん(中国)

初めて日本に出張に来たときの、日本や日本人の印象がひと言ひと言はっきりと述べられていて、とてもわかりやすかった。しかも、そのひと言ひと言に心が込められていて、言葉に力強さを感じた。



北見月香さん(中国)

正しい文法で一文一文ゆっくりと聞いている人に伝えようという姿勢はすばらしい。だんだん日本のことがわかってきて、日中の文化の違いがおもしろくなってきたとのことなので、これからも日本人と交流して日本や日本人についての理解を深めてほしい。

人のあとに“サン”なのになぜ“富士サン”なのか、など日本語クラスでのエピソードがとても面白かった。話し方がすごく流暢で、日本人と変わらない速さで話していたのでとても驚いた。



モヒット・ジェインさん
(インド)

殆ど原稿を見ないで話していたことに驚いた。スピーチで使う言葉をしっかりと記憶しており、自分の言葉として話していたので、とても説得力があった。国に帰っても日本との縁を切りたくないという発言は印象的だった。これからももっと日本を学んでいってほしい。



林 雨汀さん(中国)



グエン・アン・デユクさん
(ベトナム)

ひと言ひと言丁寧に話していて、とてもわかりやすかった。日本の大学で建築を学び、日本でたくさん家を建てたいとのことだが、ぜひ夢を実現させてほしい。グエンさんが日本でどんな家を作るか、とても楽しみだ。



清水アールヴィンさん
(フィリピン)

日本語には自信があるが、先生(日本語ボランティアの方々)がいないとしゃべれなくなるかもしれないという発言は、ボランティアの方々との深い絆を表わしている。その絆の深さに感動した。会話的な表現で問いかけ、聞き手を引き込む工夫があり、とてもよかった。

「スピーチをさせていただく」など文法的に難しい表現や「やばい」などくだけた表現を自然に用いており、日本語らしい日本語でスピーチをしていたのに驚いた。心の変化を表現することは、なかなか難しいがよくできていた。



アンドレス・ベルナルド・
パラシオ・ビジェガス
(コロンビア)

まず「歩の駒から学んだこと」という哲学的なタイトルに驚いた。「歩」の駒がなくなったときの自分の発言が原因で日本の友だちとうまくいかなかったことやそのときに感じた気持ちを、自分のことばでしっかりと述べていたこともとてもすばらしかった。日本語をたくさん勉強して、たくさんの日本人と友だちになってほしい。



石川 翔太(中国)